

企業行動研究部会議事録（第 262 回）

日 時： 平成 30 年 6 月 11 日(月) 18:00-20:00

場 所： 中央大学駿河台記念館 3 階 350 号室

出席者： (13 名 勝田、河口、北川、木下、栗栖、小松、西藤、佐藤、出口、菱山、古山、松尾、
峰内、敬称略)

1. 連絡事項：事務連絡（総会・研究発表大会について）

勝田部会長による、開会宣言に続き、新入会員として、小松久雄氏が紹介され挨拶が行われた。

また、本日はお休みであるが佐久間部会員の紹介で来会された銀山氏は正式に入会希望が表明されたとの報告があった。

研究発表大会・総会について河口幹事より総会欠席の場合にできる限り委任状のご提出をお願いしたいとの依頼があった。また来る 8 月 1 日より 4 回シリーズで、BERC（一般社団法人経営倫理実践研究センター）と KIT（金沢工大科学技術応用倫理研究センター）のジョイントプロジェクトとして「これからの科学技術者倫理研究～社会が必要とする課題への取組み～」が金沢工大虎ノ門校舎で開催されるので是非ご予約頂きたいとの報告が行われた。

2. テーマ検討（各メンバーより報告テーマを発表頂きます）

部会長より、今後のテーマ発表について、「部会員各位が発表テーマと時期（19 年 3 月まで）をできる限り早めに予定いただき、河口まで報告頂きたいとの要請が行われた。

3. テーマ 1. 応募のあった課題について報告

部会長よりテーマ応募のあった河口部会員にその内容報告が求められた。

<私の発表検討テーマ>

3-1. 河口部会員より以下の 2 点について発表予定であることが報告されその概要説明があった。

1. 公益通報保護制度に関する研究

先に一度発表を行ったがこの制度には、今回認証制度が始まるということが発表された。この動きと内容について機会を頂ければ報告するつもりであることが報告され、現状について補足的に説明があった。

2. 品質偽装・品質不祥事について

このところ多くの品質偽装や品質不祥事というものが起こっているが、とりわけ自身が少々かわっている事例もあるので、そのあたりを報告しようと考えている。

との報告があった。

これを受けて、内部通報制度の認証制度について、また品質不祥事の対応や、議論の仕方について多少の質疑が行われた。

意見：この部会で議論すべきは、現象としての面から、もっと奥にあるものをテーマとして発表

してほしい。例えばガバナンスを強化すると言っても現に守らない現象がある、コミュニケーションといっても、今起こっていることをさらに深く議論を進めてほしい。やっていますかやっていますか？との議論では解決しないと思う。

意見：BERC と JABES の相違を考えると、BERC はコンプライアンスとガバナンスである。一方 JABES

は、コンプライアンスというのは、他律的な問題であって倫理ではない。ガバナンスと言っても、統治のための仕組みであるだけで、これまた倫理とは異なると考える。なぜエシックスと呼ばないのかと思う。コンプライアンスやガバナンスという逃げ言葉で対処するからダメ。そこをきちんと考えて発表頂きたい。日本ではコンプライアンスと言うが、

意見：お話が教科書の言葉理解の話に偏っているように思う。米国でも現在の企業では、チーフエシックス&コンプライアンスオフィサーという呼び方が一般的になっており、両面からの指導を進めている。こうしたところも理解すべきではないか。

続いて部会長より、次のテーマ提出のあった峰内部会員から説明するよう要望があった。

3-2. 峰内部会員より、問題意識として以下の2点について説明があった。

1. 「AI」は人間から何を奪うのか？

今我々はある日突如として世界が変わる「特異点」に向かっている pre-singularity の時期にあると SF 小説まがいの話が主に IT 業界関係から流布されている。しかしこんな話は別として「AI」技術の進歩は確かであるので「AI」は我々に何を与え、何を奪い、何を变えるのか考えてみる。

2. 「談合」を今一度考え直してみる。

いわゆる「リニア談合」で大手ジェネコン4社が問題になっている。

一方で、これは本当にいわゆる談合問題なのかという批判・問題提起がある。

この際、談合を批判する論理と倫理をもう一度再検討する必要があるのではないか。

意見：談合問題について、2017年5月2日に自分が発表したが、公正取引委員会は戦後連合国により導入されたシャーマン・アンチトラスト・アクトに基いて導入された非常に古い制度であり、倫理的根拠がある訳ではない。グリーSPANは米国経済をだめにした法だとした。悪法とも言われる。個人的には不要な法とは思いますが、その改正となると政治的には難しいが、倫理的には意味のない法だと思っている。

意見：新井紀子氏によると、AIが人間を超えることはないと言われている。現在の能力では MARCH クラスの入試は突破できるが、具体的な実業の事例に対しては実際に AI が超えることはないと言われている。独占禁止についても、現実にはさらにその方向を強化しようというのが現在の考え方の主流である。

形式的な見做しを避けるためにも現在の経営者は、同業では合わないようにしている現実もある。

意見：法律をありがたがって受け入れる発想だけでは問題が先に進むことはない。

意見：例えば、メガバンクと地銀の関係性なども議論の対象となるか。

意見：もう少しまとまった提案を受けて議論を進めることで良い。

意見：品質の特採の考え方も、身内の中で良いと思ってやっているわけで、片側だけの判断で進めるのは問題だと考える。新井紀子氏はシンギュラリティは来ないとの説を述べておりそのあたりにも言及すべき。

意見：AIでは既に判例の調査等にはAIが導入済みである。

3-3. 勝田部会長より、自身としては企業不祥事に関する手元資料等を基に今後テーマ発表していこうと考えている。

3-4. 栗栖部会員より、仕組みと責任というような観点で組織論の考え方を踏まえた研究をして行くことをテーマとしたい。当面は日立の考え方をベースに検討したいとの報告があった。

部会長より、今後これ以外の研究報告テーマを検討提出頂きたいとの要請があった。

3-5. 菱山部会員より、経営への従業員参加のような取り組みについて、またキャッシュレス時代の対応力、デジタルグローバリゼーションの中での経営について検討したい。との報告があった。

以下これらの課題について屢る議論が継続したが、詳細は省略する。

3-6. 菱山部会員より提出された

「我が国は腐りきったのか～目を覆う 弛緩！思考停止！職業倫理の欠落」

～ 何故に？ 処方箋ありや？ ～

経済界：オリンパス 東芝 三菱自動車 神戸製鋼 三菱マテリアル 東レ 日産 スバル

JR 西・のぞみ事故 スルガ銀行 宇部興産 電通

品質・改ざん：ゼネコン・リニア談合 技能実習不正 過労死

政界：「お友達」・忖度 無責任化 財政規律 安倍話法 違憲放置

官界：忖度 公文書改ざん・破棄 文書隠蔽 商工中金 セクハラ

スポーツ界：暴力沙汰 不法行為

教育界：大学ガバナンス いじめ隠蔽

司法、医療、社会福祉、学会、親子、自治体・・・

について報告があり意見交換が行われた。

意見：テーマそのものが、印象的、20年ほど前にあのドイツのシュピーゲル紙が、モーゼの後3000年、キリストの後2000年我がドイツはどこにモラルがあるのか？という特集があったことを思い起こすぐらい取組の始まりとして良いテーマへの取組と思う。

意見：はっきりしていることは、功利主義（マーケットエコノミー）、原理原則主義（義務論）を人類が常にバランスをとって過ごしてきたはずが、今や旧ソ連が崩壊して以降功利主義だけが軸になっておりこのことが米国でも問題とされ始めている。米国のタマウ・フランケルという人がそれを書いている。

意見：80年代の終わりにバブルが崩壊して、TQCがなくなったのが95年頃と思うが、このことが企業にとって大きな影響・狂いが出ているのではないかと感じている。本質の議論がなくなり、あれはダメと言う結論がはびこっている。

意見：このようなテーマがこの部会で出てきたことは良いこと。

意見：表題は、腐りきったのか？と書いてあるが、そうすると昔はそうではなかったということか？

意見：倫理という言葉が

4. テーマ2. 研究発表大会の統一論題「スポーツと経営倫理」に関連して、日大アメフト部の危機対応などについて意見交換

日本スポーツ振興センターの業務紹介の中にあつた資料を共有し、勝田部会長から報告が行われた。

・スポーツ・インテグリティとは？

高潔さ 品位 完全な状態を意味することばです。

・Integrity of Sport を脅かす要因

ドーピング 八百長・不正調査 チート行為 ハラスメント 人種差別 贈収賄

自治に対する外部からの圧力 ガバナンスの欠如

・JSC「スポーツ・インテグリティ・ユニット」設置の背景等について報告があり多少の意見交換が行われた。

5. その他

総会への欠席者に再度委任状提出をお願いし、閉会した。

(文責：河口)

議事録送付先(敬称略)：

[部会員]：安藤、井上(真)、井上、岩倉、上原、遠藤(淳)、遠藤(梨)、大泉、大島、岡田(佳)、片方、勝田、加藤、河口、川村、北川、木下、熊本、栗栖、桑山、小池、西藤、斉藤、佐久間、櫻井、佐藤、柴柳、瀬名、潜道、高橋、武谷、田村、出口、徳山、永井、那須、西村、野瀬、野田、比賀江、樋口、肥後、菱山、平塚、古谷、古山、前原、増岡、増澤、増渕、松尾、松本、丸山、水島、水野、峰内、

宮川、宮澤、山口、山中、山本、横館、吉村、銀山(オブザーバ)

[学会本部]：梅津会長、水尾副会長、高橋前会長、内田事務長